

新しい 地域文化への提言を

1995年9月1日 ふくい・くらしの研究所は、『福井における“くらし”を切り口とした、人間と環境のあり方を考える総合研究所』をめざして、新しい地域文化への提言を目的に任意団体として設立しました。

11月には、生協会館（福井市宝永3丁目）を活動の拠点に据えてオープン式典を開催し、会員相互の交流の場ともなるフリースペース『ひろば風』もオープンしました。



1995年9月1日 設立総会



1995年11月24日
オープン式典
『お披露目の会』



ひろば風オープン
『陶・染・パッチワーク展』

設立趣意書

古くから越前・若狭といわれる福井県に生きる私たちは、協同と共生の思想を大切にしながら、くらししてきました。
そして今、新しい時代を創発的に生きるため「くらしのありかた」を幅広く研究し、調査発表する『ふくい・くらしの研究所』を県内外のより多くの人びとの参加のもとに、設立していきます。

1つのテーマ(主題)

- 自立・協同・安全・安心・共生・愛にあふれた未来創造へのアプローチ

「女の惑星 地球に生きる」目として、福井の地域を大切に「くらし」そのものをあらゆる角度から、調査・研究し、議論を深め、自立・協同・安全・安心・共生・愛にあふれた未来創造へのプログラムとシステムのあり方について、積極的にアプローチします。

2つの目的

- 策い、論じ、調査・研究し、科学的成果へと集約します
- 成果を民間・税引し創発的実践の活用を目指します。

「2つの目的を達成するために、くらしの調査・研究活動」を調査・研究のためのグループづくり、セミナー・シンポジウムの開催、月刊誌の発行、政策提案活動、福井・くらしの相談活動を中心の柱として、さらに従来の枠にとらわれない多彩で柔軟な成果の集約「提言・実践・活用」のあり方を目指します。

3つの誓い

- 真実を常に探求します。
- 自立性を常に尊重します。
- 協同を常に遵守します。

「参加する人びとは、それぞれの関連や立場において、真実・自立性・協同を心掛けます。これこそが、未来創造のエネルギーとハラス(情熱)を発揮させる源泉となることを希求します。

5つの活動指針

- 「生活」というフィールドを総合的に調査・研究します。
- 「福種」というジャンルを総合的に調査・研究します。
- 「家族」のあり方を総合的に調査・研究します。
- 「環境」の実態を総合的に調査・研究します。
- 「交流」を通じて多くの人びととふれあい、相互に切磋琢磨します。

「生活・福祉・家族・環境・交流」という5つの土台をベースに、あらゆる角度から総合的に調査・研究活動を行い、成果として集約し、実践に移します。とりわけ「交流」は多くの民間団体・諸機関の人びととのオープンな交流の場として位置づけられます。

結語

「私たちは、福井の地における“くらし”を切り口とした、人間と環境のあり方を考える総合研究所づくりを目指します。
それは、新しい地域文化への提言となることでしょうか。」

私たちは 集い 論じ 学び 調査・研究し、真実・自立性・協同の名において 成果を集約し、責任をもって活動します。

それは、未来・夢と希望のメッセージを託する、現在の私たちの重大な責任なのです。

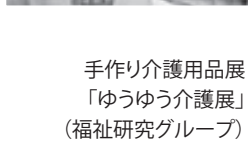
1995-1996

日常的な暮らしの中で、特に「生活」「福祉」「家族」「環境」「交流」をテーマに自主研究グループを立ち上げ、研究グループの活動を柱に研究・啓発活動を実践しました。

くらしの中で疑問に思ったこと、関心のあるテーマを具体的に選定し、アンケート調査、専門家を講師に学習会、行政へのヒアリングや質問状提出などを行って結果をまとめて公表し、公開学習会なども開催しながら問題提起をしました。必要な場合は行政に対して要望書を提出しました。



簡単アイデア料理講習会
(食研究グループ)



手作り介護用品展
「ゆうゆう介護展」
(福祉研究グループ)



1996年12月
「小型規模受水槽水道に対する要望書」
を福井県に提出
(環境研究グループ)

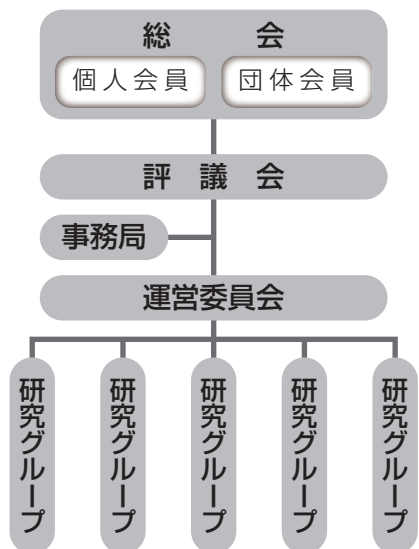


「みんなでつくる楽しい子どもの食生活」
学習会
(1996年度)

公共交通を考える
(くらし研究グループ)



組織図



評議会



ひろば風『福祉フェア』



初代所長・理事長
大内力氏